



1 お知らせ

* 保護者様向けアンケートの御礼

先月は保護者アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

結果については、各教室から教室に掲示して周知させていただきます。

2 トレーニングテーマ

与野教室

1日～3日 お金の理解

5日～10日 電言

12日～17日 将来の夢

20日～24日 料理

26日～30日 作文

与野本町教室

与野本町教室は個別トレーニングのため、トレーニングテーマは個人によって変更させていただきます。

川越教室

1日～3日 行動の切り替え

5日～10日 掃除

12日～17日 電話

20日～24日 お金の理解

26日～30日 将来の夢

3 職員からの推薦図書

題名 ゆるゆる恐竜図鑑
著者名 加藤 太一
参考価格 1078円(amazon)
推薦者 品田麻衣子(我孫子教室)



かわいい絵の4コマ漫画と解説で、恐竜に興味を持ちやすい本です。恐竜の名前で目次があるので、辞書を引く練習にもなるかも。茨城自然博物館の学芸員の方の解説もあり、恐竜が好きな子ももっと詳しくなれそうです。

4 おうちでキッズコーディネーション

～手漕ぎボート～

難易度★★★★☆

- ねらい
- ・体のバランスを保つ
 - ・体をタイミングよくスムーズに動かす

- 進め方
- ① 保護者と子どもが、向かい合って体育座りをし、手をつなぎます。
 - ② 手をつないだまま、お互いのおしりが浮かない範囲で、子どもに後ろに倒れてもらいます。
 - ③ 子どもの姿勢が安定しない、または足が浮いてしまう場合は、保護者が子どもの足の甲を軽くふんであげるとよいです。
 - ④ そのまま保護者が手をひきながら、子どもは体を起こし、今度は保護者が体を後ろに倒します。
- ☆ ボートをこぐ要領で、互い違いに体を倒す、起こすを繰り返します。
なれてきたら、保護者は少し力を入れて引っ張り、負荷をかけてあげましょう。
- ☆ なれてきたら、両手でなく片手だけをつないで動作を行うことで、負荷を変化させることができます。



YouTubeに参考動画をあげています。ぜひご活用ください。

本トレーニング動画は、YouTubeにてハッピーテラスのご利用者様に対し、限定公開されたものです。ハッピーテラスのご利用者様以外の方にURLをお知らせされないようにお願いいたします。

5 9月の追加ご利用可能日程

各教室において、下記の日程で定員の空きがございます。追加でご利用される場合にご参考ください。

(記号：○・・・空きがございます △・・・若干名の空きがございます)

日付	1	2	3	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	20	21	22	24	26	27	28	29	30
曜日	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	火	水	木	土	月	火	水	木	金
与野教室	○	△	△	△	△	○	×	△	×	△	×	○	△	△	△	△	○	△	△	×	△	○	○	△
川越教室	△	△	×	△	△	×	×	×	×	△	△	△	△	△	×	×	△	×	×	△	△	×	△	△
与野本町教室	与野本町教室は個別のトレーニングのため、空き情報が出ましたらその都度ご連絡させていただきます。																							

* 追加については、お電話でも受け付けます。

6 療育コラム 「応用行動分析 (ABA) の考え方④～分化強化～」

今回も前回に引き続き、応用行動分析の考え方に伴う具体的な支援の方法についてお話ししていきたいと思います。前回は、行動の結果、好子が出現しているパターンへの具体的な対応の1つとして、好子の消去、についてお伝えしました。

しかし、前回もお伝えした通り、この方法は成功した時の行動の消去や即時性などに伴って、実行時のリスクも大きい方法となります。そのため、今回は、もう1つ別の方法を紹介していきたいと思います。

別の方法と言っても、良い行動の強化を行う事で、間接的に問題となる行動の頻度を減らす、という方法です。このような、ある行動を消去しつつ、別のある行動を強化する方法を分化強化、と言います。

分化強化には幾つかのポイントがありますので、以下の通りご説明します。

①減らしたい行動と同種の機能で、別のより適応的な行動を狙って強化

→問題となる行動が【悪口を言う】であるとすると、同種の機能を持つ、より適応的な行動としては【挨拶をする】、【助言をする】などが挙げられます。

更に、これを狙って強化するという事の具体的な例としては、悪口という問題となる行動が見られた際には、敢えて全く反応を返さず、後者の挨拶や助言などの同種のより適切な行動が見られた際には、反応を返したり、褒めたりする、などの適切な好子となるような反応を返す事を通して、適切な行動の頻度を増やす、という方法が挙げられます。

②減らしたい行動をしていない時に強化

→これは、より直接的な表現で伝えると、問題となる行動が出ていない、言うなれば声掛けをせずとも、適切に取り組んでいる際などに、その状態を強化する、ということです。

一般的に大人が子どもに対して声掛けをする時を振り返ってみますと、問題とされる行動が見られた際の、制止や叱責などが多くを占めているのではないかと思います。しかしながら、それは関係性の悪化にも繋がりがかねませんし、前回お伝えした通り、時と場合によっては、問題とされる行動を促進する好子ともなり得る可能性を含んでいます。一方、場面に合わせて適切に行動できている時（例えば、先生が話している時に先生の方を見て、座って話を聞き、頷いている、など）の事を考えてみると、先のように制止や叱責こそ受ける事はないものの、それを適切に評価されるという場面は制止や叱責と比較すると少ないように感じます。適切に振舞っている状態、あるいはそこまですべて問題無く過ごしている状態が強化を受ける事は、否定的なメッセージを伝えることなく、寧ろ肯定的なメッセージを伝える事で問題行動を減らしていけるため、ひじょうに良い関わりであると言えます。

③減らしたい行動と両立できない行動を強化

→これは、他者に向かって物を投げる、という問題行動を例に挙げて考えてみると、的に向かって物を投げる、という適切な行動を強化する、こととなります。当然ながら、他者との同時に狙って同じ命中率で物を投げることは一般的には両立することが難しいため、的に向かって物を投げる、という好ましい行動の強化をすることで、必然、人を狙って物を投げる、という問題行動の頻度は減る事となります。

いかがでしたでしょうか。以上の3つが分化強化をしていく際のポイントとなります。

よくよく考えてみると当然の事ながら、両立不可能、ないし困難な良い行動の頻度が上がると、問題行動の頻度は必然下がっていきます。ともあれ、一気に良い行動に切り替えていく事は、それこそ不可能に近いです。

そのため、前回もお伝えした通り、行動を細分化した上で、スモールステップを踏みながら、好ましい行動の兆しから強化をしていく事で、その先のある好ましい行動へと近付けていこう、というのが応用行動分析的な考え方となります。

次回は、以前教室アンケートでご意見をいただきました【アサーションを定期的に振り返る機会などがあると良い】というご要望にお応えしまして、アサーションを振り返る機会とさせていただきます。